農山漁村共同アトリエ群による産業の再構築と多彩な生活景の醸成

研究代表者：大沼 正寛
（東北工業大学大学院ライフデザイン学研究科 教授）

実施者・協力者：　宮城大学事業構想学部、秋田公立美術大学美術学部、雄勝硯生産販売協同組合、松岡物産株式会社、有限会社熊谷産業、ノーマルデザインアソシエイツ　ほか

実施地域：　宮城県、岩手県、山形県ほか

背景

農山漁村では、元来の生業に加え、地域資源に根ざした近代産業が隆盛した時期もあったが、現在は衰退し、人口流出が進んでいる。暮らしを再構築する多世代共創の場＝共同アトリエ（CA）群の評価・創出と、地域らしさを深めた生活景の醸成モデルが必要である。

プロジェクトが目指すもの

＜目標＞
・CAデータベースの開発普及
・生活景醸成モデル事例創出
・ネットワーク型地域産業形成

⇔

＜主な評価指標＞
・公開情報WEBの参照数
・特定事例の経営実績と継続
・事例間連携PJの創出展開

＜明らかにしたいこと＞
・地域の資源・知恵・技を新たな生業に再構築できないだろうか？
・地域らしい背景と生業の横顔（生活景の醸成）は目標となりうるか？
・散在した生業のネットワークから地域産業が形成できないか？

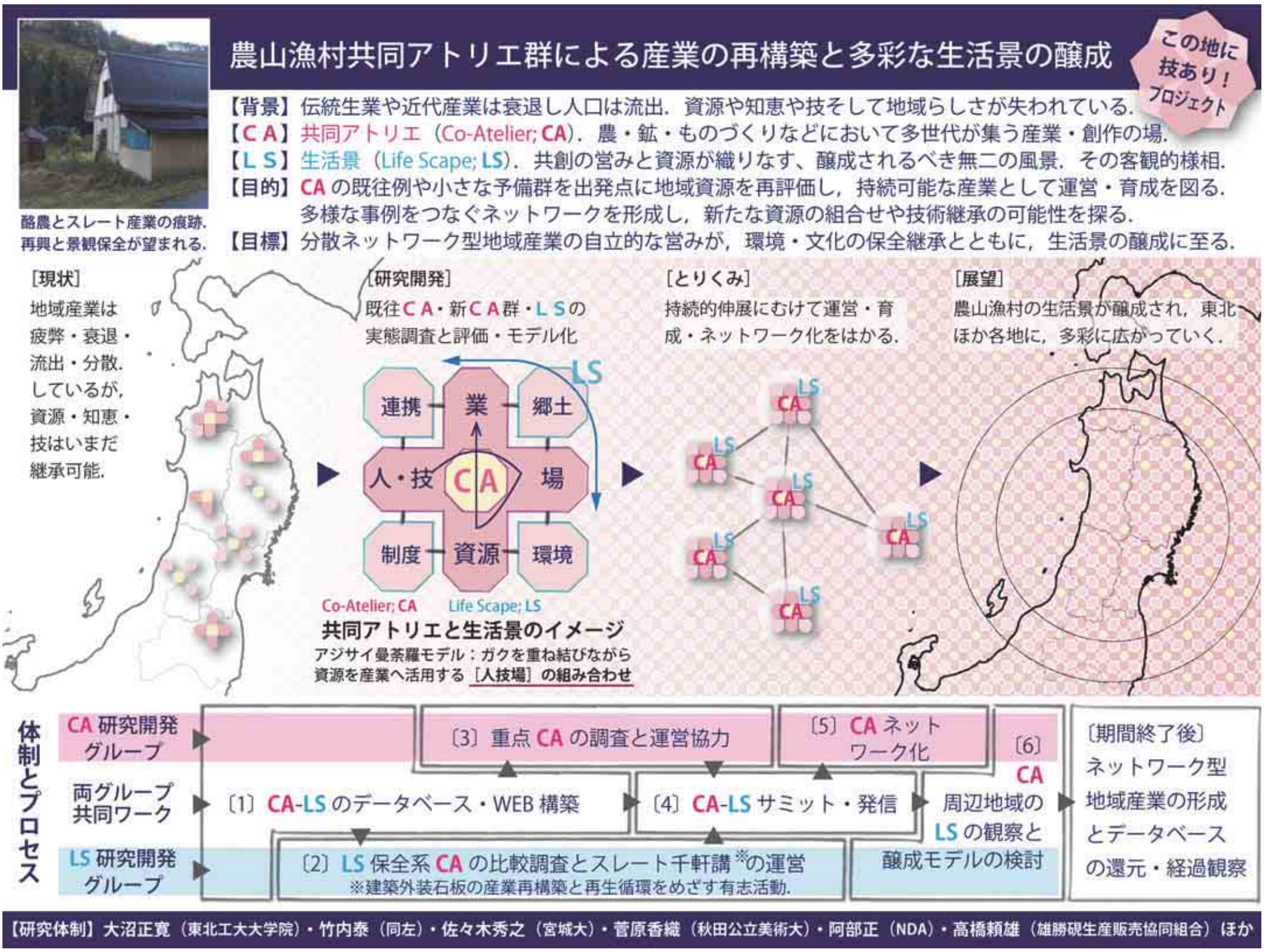
＜成果の活用イメージ＞
・東北など農山漁村地域住民が、知恵・技・人材・手法を共有する。
・自立と連携ができる新しい創造的農山漁村を都市民が尊重する。

プロジェクトにおける持続可能性、多世代共創

農山漁村の生業・産業の再構築は、持続可能な地域環境の保全と表裏一体にあり、そこに現代的創造性・統合性があれば若者世代の参画が期待でき、高齢化が進む地域において多世代共創の現場が創出されると考えている。

わかったこと・課題・今後のとりくみ

⑩大沼PJ

＜これまでの経過・わかったこと＞
・日本建築学会（AIJ）農村計画委員会等におけるフィールド調査
・仙台まちなか農園（2006）
・鶴岡焼畑サミット登壇（2008）
・AIJ東北大会「山村をたてなおす小さな輝き」プロデュース（2009）
・文化遺産の保存活用やスレート建築調査
・震災後：三井物産環境基金「雄勝いしのわプロジェクト」（13～16）

＜今後のとりくみ＞
①共同アトリエ群のデータベース構築
②特定事例・陸前スレート千軒講のマネジメントと生活景モデル呈示
③代表共同アトリエ群の詳細研究と国内外調査
④共同アトリエ群・生活景醸成モデルのネットワーク化と公開サミット
⑤課題解決WSおよび「分散ネットワーク地域産業と生活景」の理論化